

歴史的都市周辺の住民の地域認識に関する研究

—郡上八幡小野地区を対象として—

5207D015-5 沖野 俊介*

Shunsuke OKINO

積極的なまちづくり活動を行う郡上八幡の中心部であるが、人口の空洞化と商業の衰退によって空き家や空き地が見られ、その周辺では宅地や施設の開発が行われている。こうした背景をふまえ、郡上八幡の中心部に隣接する小野地区の住民を対象として調査を行い、小野地区や中心部に対する意識を把握した。結果、中心部のアイデンティティが小野地区の住民にとっても重要であることが分かり、中心部のアイデンティティによって小野地区のアイデンティティが成り立つことが明らかとなった。

Keywords : 郡上八幡、小野、都市周縁部、住民意識、ヒアリング

1. 研究の背景・目的

近年の都市計画の分野における問題のひとつに中心市街地の衰退が挙げられる。郊外地域における宅地や大型商業施設の開発によって、かつての中心市街地は活気を無くし、今では多くの地方都市においてシャッター通りが見られる状況となっている。

こうした問題は全国に残る歴史的な都市においても例外ではない。本研究の対象地である岐阜県の郡上市八幡町（以下「郡上八幡」）は、江戸期からの歴史を持つ城下町である。積極的なまちづくり活動によって、旧市街地（以下「中心部」）には歴史的な街並みが残されているが、やはり人口の空洞化と商業の衰退によって空き家や空き地が増え始めており、同時に周辺地域では宅地や商業施設の開発が起きている。そもそもの背景にはモータリゼーションや通信技術の発達があり、こうした社会の変化によって人々の住環境に対する意識やライフスタイルが変化したことが原因にある。これらはもはや中心部だけでは対応しきれない問題となっており、問題の解決のためには、中心部に限らず周辺も含めた広い範囲での地域のあり方について考えていくべきである。

以上をふまえ、本研究は郡上八幡中心部に隣接する地域に着目する。中でも特に住民の増加が見られ、現在でも増加の傾向にある郡上八幡小野地区が本研究の主対象である。

小野地区住民の地域に対する意識に着目し、ヒアリング調査や現地調査、住民との意見交換を通じて、小野地区住民の生活の実態や、小野地区と中心部それぞれへの意識を把握することで、住民の意識における現在の中心部と小野地区の関係性について明らかにし、今後の関係性についての課題や可能性についての考察を行うことが本研究の目的である。

2. 研究の概要

2.1 研究の位置づけ

都市計画の分野で多く取り上げられているこれらの問題であるが、現状をふまえて、歴史的な街並みの残る中心部だけでなく、開発の行われている周辺地域を対象として研究を行うこと、そして広域での地域のあり方について考えていくことに本研究の意義があると考えている。本研究の対象地である小野地区では、2006年にアンケートを行い、生活における行動や地域に対する意識についての把握を行った。また松崎は、現地調査から小野地区の建物を一軒ごとに整理し、調査結果をGISにより地図上に表示することで小野の街並みについての考察を行っている。本研究ではそれら過去の研究の整理し実態を把握した上で、ヒアリング調査等を行い、より詳細な住民それぞれの地域への意識について明らかにしていく。

2.2 研究の流れ

本研究の流れは以下の通りである。

- 1) 過去に小野地区を対象に行ったアンケート調査、街並み調査および追加調査から小野地区の現況、実態を把握し、それをふまえて仮説を立てる。
- 2) 小野地区住民を対象にヒアリング調査を行い、住民の生活の様子について把握する。
- 3) 住民を対象に、それまでの調査結果の報告会を行い、住民の反応や意見について把握する。
- 4) 複数の住民を対象としてヒアリングを行い、中心部に対する意識について把握する。
- 5) 以上1)~4)をふまえ、仮説を検証することで、現在の小野地区と中心部の関係性について明らかにし、今後の関係性についての考察を行う。

3. 対象地の概要

3.1 対象地の位置関係

郡上八幡は、岐阜県のほぼ中央に位置する。東西および北の三方を山に囲まれており、土地利用のほとんどは森林である。また、西側には長良川が、まちの中央には吉田川が流れる。本研究の対象である小野は中心部の東側に隣接し、八幡町内では珍しく広く良好な平地を有する地域である。その位置関係を図 3.1 に示す。

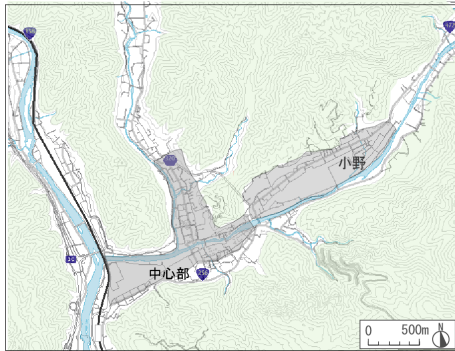


図 3.1 対象地の位置関係

3.2 中心部の変遷

近世から城下町としての歴史を持つ郡上八幡の中心部には、現在でもその歴史的な街並みが残っており、積極的なまちづくり活動が行われている。近年は、国の重要無形文化財にも認定されている『郡上踊り』も人気で『水と踊りのまち』として親しまれ、観光地としての賑わいを見せている。

かつての中心部は、八幡町内の住民の生活の拠点であり、買い物など様々な目的で周辺地域の住民が利用していた。しかし、現在では人口の空洞化と商業の衰退によって空き家が見られる状況となっており、平成 13(2001)年には八幡町が行った『八幡市街地空家現況調査』では、およそ 1200 軒の住居の内、207 軒の空き家が確認されており、その街並みの喪失が危ぶまれている。

3.3 小野地区の変遷

小野は八幡の地域の中では土地が広く日照も良いことから、古くからその地勢を活かして農業が営まれていた。作物が良く育ち、郡上踊りの歌詞に「五町大根に小野茄子」とある様に、立派な作物が採れた様である。昭和初期の小野地区には約 70 戸の住居しか無く、田や畑がほとんどであった。

しかし、大正期に起きた中心部での大火の経験や、鉄道の開通、国道の改良により交通の便が発達したことから、戦後から中心部や周辺地域から小野地区へ移り住む人が増え始めたため、良好な住宅地の形成に向けて小野

をはじめ、その他に五町地区、中坪地区において区画整理事業が行われた。中心部に隣接するこれらの地域はいずれも農村集落であったが、区画整理により住宅地としての面的整備が行われたことで事業施行以降さらに人口を増やしていくことになる。こうした流れを経て小野地区は八幡町における新興住宅地として位置づけられる様になった。小野地区の人口は、八幡町全体で人口が減少している現在においても、増加の傾向を見せている。

4. 現況からの仮説

4.1 アンケート結果の整理

小野地区住民の平均の家族像や生活像について把握するために、平成 18 (2006) 年に行ったアンケート調査の結果について整理する。

小野地区住民の以前の居住地について見てみると、現在小野地区に住む 8 割の世帯が他の地域から移り住んでおり、その半数が中心部から来たことが分かる。また、八幡町の近郊から小野に移り住んだ人も多く見られる。図 4.1 にその内訳を示す。

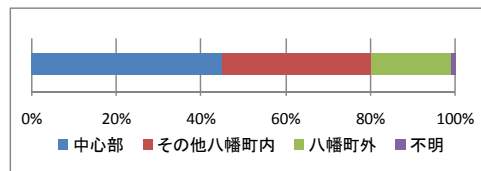


図 4.1 小野地区住民の以前の居住地

次に、小野地区の住民の生活行動を把握する。アンケート結果をもとに、「勤務地」「日用品など生活必需品の買い物先」「衣料・電化製品などの買い物先」「休日の訪問先」について把握した。回答者に高齢者や主婦が多かったため、他と比べ「勤務地」に対する回答数は少ないが、参考としてここに示す。(図 4.2、表 4.1)

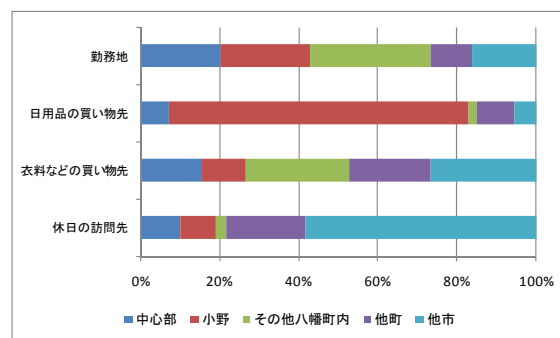


図 4.2 小野地区住民の生活行動

表 4.1 回答の内訳

目的地	回答数			
	勤務地	日用品の買い物先	衣料などの買い物先	休日の訪問先
中心部	10	24	40	16
小野	11	253	28	14
その他八幡町内	15	7	66	4
他町	5	32	52	31
他市	8	18	68	91
合計	49	334	254	156

結果を見ると、生活における行動が広範囲に渡り、様々な地域を訪れているのと同時に、中心部はあまり利用されなくなっていることが分かる。中心部に仕事をもち、勤務地としている人は多いが、買い物の際にはあまり利用されていない。かつては八幡町一帯の住民の生活の拠点

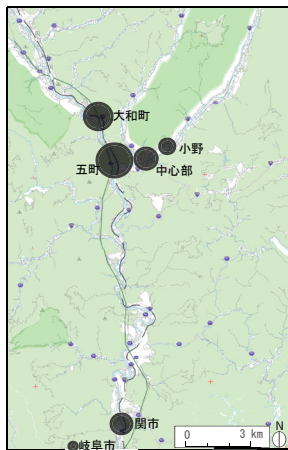


図 4.3「衣料品などの買い物先」

として賑わいをみせた中心部であるが、今ではその利用頻度も下がってきており、そしてそれは中心部の商店の衰退にもつながっている。

他にこのアンケートでは、小野地区の住民は、「郡上踊り」にもあまり参加しないこと、小野地区を住環境として高い評価をしていることなどが分かっている。また、今後の地区への要望には多様な結果が得られたが、世代によって地域への意識に違いがあることが分かった。

4.2 街並み調査結果の整理

次に、小野地区における街並み調査結果について整理する。既存の建物調査結果に合わせ、小野地区に多く現存する農地について今回追加調査を行い、小野地区の街並みについての把握を行った。その特徴について述べる。

1)小野地区の住居タイプ

ファサードの整った町屋造りの住居が並ぶ中心部とは異なり、小野地区には様々なタイプの住居がある。この地域では珍しく、広く平坦な土地があるため、間口の向きも様々で、庭付きの一戸建てがほとんどである。その分植栽が豊富な住居が多く、駐車スペースも確保されている。区画整理以降徐々に住居を増やしてきたため、建設年代も様々で、伝統的な和風の住居から、近年ではハウスメーカーによる住居も見られるようになった。



図 4.4 小野地区の住居タイプ

2)小野地区の農地と水路

農村集落から、今では新興住宅地と位置づけられる程に住居の増えた小野地区であるが、現在でも各所に農地は残っている。勾配のある北側には畑、勾配のあまりない南側には田が多く残っており、現在でも趣味や自己消費を目的として一部の住民が農業を営んでいる。しかし、その状態は様々であり、管理が行き届き豊富な植物が栽培されているものから、荒地や空き地になったもの、駐車場に変わったものもある。(図 4.5)

また、小野地区には中心部同様水路が通っている。しかし、区画整理に合わせて多くの部分が暗渠化され、今では防火用水として用いられる他は生活で用いられることも少なくなった。

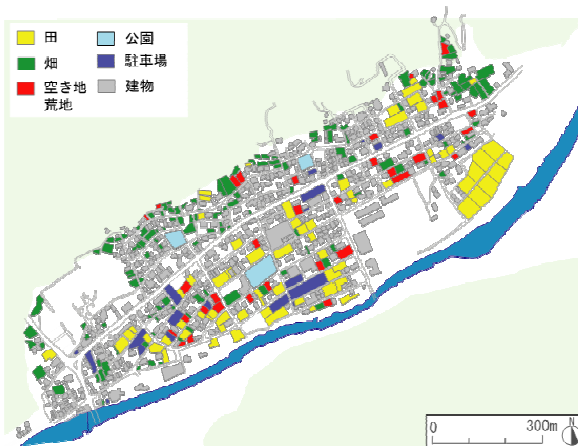


図 4.5 小野地区の農地の分布図

4.3 現況からの仮説

以上の現況の把握から考えられる小野地区住民の意識として、次の様な仮説を立てた。

- 仮説1：小野地区の住民は、あまり中心部に買い物には行かず、郡上踊りにもあまり参加しない。中心部の活動や現状には興味がないのではないかな。
- 仮説2：中心部のそれとは異なり、小野地区の建物のタイプはばらばらである。また、様々な世代の住民がおり、地域への要望にも違いがある。住民のつながりは中心部よりも希薄で、まとまりがないのではないかな。
- 仮説3：小野地区は、現在人口が増加の傾向にあると同時に、農地の荒廃や水路の暗渠化も起きている。以前の街並みとは大きく変化しており、まちづくりなどの活動を行うにしても今後の方向性は不透明なのではないかな。

現在の小野地区住民の意識に基づいた、小野地区と中心部の関係性について明らかにするためには、これらの仮説を検証していく必要がある。

以上をふまえ、アンケートなどでは分からない詳細な住民の意識について把握するために、面接方式のヒアリングなどの調査を行った。

5. 住民意識調査

5.1 調査の概要

仮説を検証するために、小野地区の住民を対象に、生活の実態や、小野地区と中心部それぞれへの意識に対する調査を行った。調査の方法は、個人へのヒアリング、報告会および意見交換、そして集団ヒアリングの3つに分かれる。

5.2 個人へのヒアリング調査

生活の実態や地域への意識について詳細に把握するため、面接方式による個人へのヒアリング調査を行った。概要について表 5.1 に、対象者の属性について表 5.2 に示す。

表 5.1 ヒアリング調査概要

日時	2008.9.4~9.11	調査内容
時間	約1時間	生活の様子、近所付き合い、地域への要望、引越してきた時の思い出・印象など
対象者数	6名	

表 5.2 対象者概要

	性別	年齢	職業	居住歴	以前の居住地
A	男性	70代	自営業	約70年	(生まれから小野)
B	男性	60代	公民館長	約40年	福井県
C	女性	60代	自営業他	約35年	中心部
D	男性	50代	自営業	約30年	東京・岐阜など
E	男性	40代	自営業	約5年	中心部
F	女性	40~50代	PTA他	約10年	中心部・関市など

調査を通じて、住環境への満足感や、近所付き合い、地域内活動に特徴があることが明らかになった。次にその特徴について示す。

1)小野地区の住環境

ヒアリングを行った住民全員から、住環境に関しては非常に満足しているということを知ることができた。その理由には、農地や植栽、そして地区内にある公園など緑が豊富であること、敷地が広いので車を敷地内に置くことができること、大型のスーパーが地区内にあり容易に用を足せること、などがあつた。緑や立地などの快適性や、容易に車で移動ができ、用を足すことができる利便性は中心部とは異なる小野での生活の特徴である。

また、他の地域から来た人からも同様の意見を聞くことができたが、他にも、城や川があることや川の水がきれいであることが小野に来た当時の印象としてあつた様である。小野地区からも眺めることのできる城や川は、中心部の歴史的な資源であると同時に、小野地区住民にとっても貴重な資源となっている。

2)近所付き合い

中心部では、住居が密集していることもあり近隣との強い連帯意識がある。それに対して小野地区は、中心部ほどの連帯意識はない様であるが、「干渉しすぎない、あっさりした人間関係」や「いざというときは支え合える関係」が成り立っている。住民はそうした関係に満足しており、特に若い世代の人の満足度は大きい。しかし同時に、「小野では家に鍵をかける」という様に現在の関係を不安視する意見も挙げられた。

小野地区の特徴

住環境	近所付き合い
<p>B 八幡の中でも小野地区というのは当時一番の新興住宅地でしたし今でも新興住宅地としてはここが一番じゃないですかね。</p> <p>C やはり小野には田んぼや緑がたくさんあって、立地が良いです。駐車場のある広い家が欲しいということで、まちなかからたくさんの方が来ているみたいです。</p> <p>D 繁華街じゃないけど住みやすいね。川とか城とか自然とか様々な要素があるからそういう面で居心地が良い。</p> <p>E 車も常盤町の頃は家からちょっと離れた所に車庫を借りて車を置いていたけど、今は自分の敷地内に3台くらい置けるのでそういう便利な部分はあるね。</p> <p>E やはり小さいときからの付き合いとは違うので、近所付き合いということに関してはまちなかとは違うなど。それが良いのか悪いのかと言ったら両方あるけどね。</p>	<p>B (まちなかの様な) 住んでいる隣同士が仲の良いネチネチとした人間関係も、またこれは窮屈になるしね。いざという時には助け合える程度の、サラッとした人間関係だと思っています。</p> <p>C (小野の) 地域全体では仲が良いと思います。ただまちなかでは家に鍵をかけないんですが、ここではかける。そういう意味では、まちなかに比べると小野の方が関係は希薄だと思います。</p> <p>E 新しく来たからといって、前からいる人と違うというか、つまはじきみたいなことは無かったです。</p> <p>F すごく仲が良いんですよ。近所にちょっと体に障害のあるおばあちゃんがいらして、回覧板を回すときとか中身を読むときとかは周りの若い人でサポートしたり。そういう支え合いはあります。私が学生のときとかは八幡のまちなかが嫌いだったの。ネチネチとうるさいでしょう。最近はそういう思いもなくなったけど。</p>
地域内活動	
<p>A 昔から住んでいる人は全体の1/5くらいで4/5くらいはよそから来た人な訳で、地区がまとまるために、公民館とか祭りとか運動会とか、そういったことを活発的にやりながら、小野地区にいた人と外から来た人がコミュニケーションをとる場があります。</p> <p>B 公民館では、楽器の演奏ですとか青少年育成委員の行事、中学生の部活・運動会・敬老会・展示会、あとは三味線などの発表をする芸能祭などをやります。運動会は実際の中学のグラウンドでやるんですが、住民全体の1/3くらい、何百人も参加しますね。運動会は若い人が多くて、敬老会は高齢者が中心でカラオケなどをしたりしますね。</p> <p>D 若い人が多くてエネルギーがある。小野の運動会には若い人も年配の人もたくさん来るけど、今のまちなかはそういうことはできてないでしょう。子供・子育て世代・中年・高齢層のバランスが良い。</p> <p>E (水路掃除には) 人もたくさん出てくるし、皆さん協力的なので、大変だなというイメージはないですね。</p>	

図 5.1 ヒアリングから得た小野地区の特徴(アルファベットは表 5.2 に対応)

3)地域内活動

様々な世代が住む小野地区では、文化部、体育振興部、青少年育成委員という3つの部を軸にした地域内の活動が盛んに行われている。(表5.3)

表 5.3 地域内活動の内容

主催	主な活動	対象者
文化部	敬老会 女性の会	75才以上 女性
体育部	運動会	全住民
青少年育成委員	BBQ 神楽	子供 子供

主催となる部の代表者や各行事に関係する人が集まり実行委員会を立ち上げ、行事が実施される。



図 5.2 小野地区の運動会の様子

子供から高齢者まで、それぞれの世代が主体となった活動が行われており、またその活動の実施までも多くの人に関わる。様々な場面で住民間の交流が図られることで、地区全体の活性化につながり、新しく引越して来た人が地域に溶け込む機会にもなっている。

こうした活動は、様々な属性の人が住む小野地区が1つにまとまるために行われていることであり、実際に活動を通じて団結できることに住民は誇りを感じている。

5.2 報告会の実施

次に、小野地区住民を対象として今までの調査結果の報告会を行った。今までの調査結果の報告を通じて、小野地区の現状を住民の方に知ってもらい、その反応や意見を把握することで、住民の地域に対する意識を明らかにすることがこの報告会の目的である。

2008年11月8日に小野公民館で行った。報告会の概要を表5.4に示す。報告項目は、これまでに行った、アンケート調査結果、街並み調査結果、ヒアリング調査結果の3つに分かれる。

表 5.4 報告会概要

日時	2008年11月8日 18:00~19:00	
場所	小野公民館	
参加者数	15名	
主旨	内容	所要時間
はじめに		5分
アンケート調査結果報告	住民の方々のまちへの意識や行動についての調査の結果を報告します	10分
街並み調査結果報告	小野の街並みや移り変わりについての報告を行います。	10分
ヒアリング調査結果報告	住民の方ひとりひとりのまちへの意識や思いについて、紹介します。	10分
旗揚げゲーム	報告を通じての意見や感想などを把握し、参加された方々と「小野ってどんなところ?」を考えていきます。	25分

アンケート調査結果

- 生活の行動範囲が広がっていること
- 小野の自然環境に対する評価が高いこと
- 便利で快適なまちだと感じていること
- 小野地区への要望は人それぞれで多様であり、世代によって異なること
- 中心部を訪れる頻度、郡上踊りに参加する頻度についても人それぞれで多様であること

街並み調査結果

- 中心部とは異なる街並みが見られること
- 水路は暗渠化され、以前と比べあまり利用されなくなったこと
- 農地は今も多いが、荒地も出来始めていること

ヒアリング調査結果

- 小野地区の活動は盛んで、その良好なコミュニティが形成されていること

当日の様子を図5.3に示す。調査結果をみての住民の反応を把握するために、各項目の報告後に旗揚げゲームを行い、簡単な意見交換を行った。次にそれを示す。



図 5.3 報告会の様子

1)アンケート調査結果を見ての反応

結果報告後に右図の様な質問を行った。結果、報告に対しては、「思っていた感じと大体同じ」や「全く同じ」といった反応がほとんどであった。調査結果を見て新たに気づいたことはほとんど無かった様である。このことから、「現在の生活に満足していること」など、アンケート調査結果が住民の抱えている意識であることが確かめられた。また、地域への要望や中心部を訪れる頻度など、住民間での意識のばらつきに関しても、住民は理解していることが分かった。

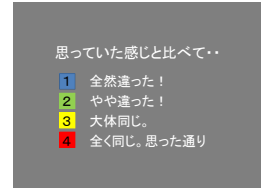


図 5.4 質問項目

2)街並み調査結果を見ての反応

街並み調査の結果報告の後にも同様の質問を行ったが、やはり「思っていたことと大体同じ」や「全く同じ」といった反応が多かった。荒地が増えてきていることや、以前は利用されていた水路が現在では暗渠化され利用もされなくなっている現状に対しても認識していることが分かるが、それと同時に、そうした現状に何の対策もしておらず、危機感を抱いていないともいえる。

3)まちづくりへの意識

ヒアリング調査の報告後には、まとめとして右図の様な質問を行った。現状を知った上で、今後住民が、まちづくりなどの活動をやるべきかと感じたかを知るためである。結果は、「とてもそう思う」「ややそう思う」が多かった。意見を聞くと、「今のコミュニティを維持するためのまちづくりが必要」という意見や、「防災・防犯のまちづくりが必要」といった意見を聞くことが出来た。中心部とは異なるコミュニティを築きあげてきた小野地区では、それを維持し、さらにまとまっていくための活動が必要と考えている。しかし荒地や多様な形式の住居など現状の景観に対して何かをしていこうという意見はなかった。

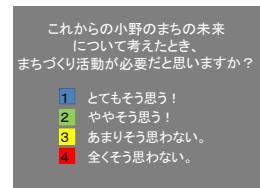


図 5.5 質問項目

5.3 集団ヒアリングの実施

2008 年 12 月 2 日に、小野地区の住民複数を対象としてヒアリングを行った。小野地区の住民が中心部の現状をどの程度認識し、どの様に捉えているのかを明らかにすることが目的である。1 人 1 人ではなく複数の住民を対象として行ったのは、同時に大量の情報を得るためだけでなく、例えば、他の人の話を聞いて何かを思い出す、といった相乗の効果を期待したためである。

はじめに中心部を訪れる頻度や目的について把握するために、旗揚げゲームを行った。次に「中心部の良い所、悪い所」および「今後中心部にはどうなっていくて欲しいか」について、それぞれポストイットに記入してもらった後、1 人 1 人に対してその内容についての質問を行った。

表 5.6 集団ヒアリング概要

日時	2008年12月2日 19:30~21:00	
場所	小野公民館	
参加者数	12名	
主旨	内容	所要時間
はじめに		5分
前回の報告	前回の報告会の結果についての報告を行います。	5分
生活の中での中心部との関わり	旗揚げゲームから、中心部を訪れる際の目的などについてうかがいます	10分
「中心部の良い所・悪い所」	それぞれの項目についてポストイットに記入して頂いた上で、住民の皆様の意見をうかがいます。	40分
「中心部は今後どうなっていくて欲しいか」	項目についてポストイットに記入して頂いた上、意見をうかがいます。	30分

参加者は、協力頂いた市役所の方 3 名を合わせ計 12 名であった。参加者の属性を表 5.7 に示し、また、当日の様子を図 5.4 に示す。

表 5.7 参加者の属性

	属性	住所
A	女性 女性の会	小野1丁目
B	男性 自営業他	小野2丁目
C	男性 建設業	小野2丁目
D	男性 公民館運営他	小野2丁目
E	男性 地区長	小野2丁目
F	男性 地区長	小野3丁目
G	女性 自営業他	小野4丁目
H	男性 地区長	小野6丁目
I	男性 公民館運営他	小野6丁目
a	男性 市役所	-
b	男性 市役所	-
c	女性 市役所	-



図 5.4 集団ヒアリングの様子



1) 中心部を訪れる頻度

この項目に関しては、著者の行った過去のアンケート調査でも把握を試みているが、その回答は多様であり、傾向を見出すことは出来なかった。

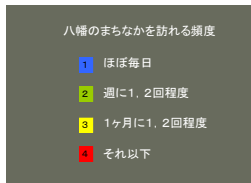


図 5.6 質問項目

ここで、旗揚げゲームを通じて、今回の参加者の中心部を訪れる頻度について改めて把握した上で、それぞれがどういう目的で中心部を訪れているのかを明らかにした。質問項目を図 6.3 に示す。

やはり、中心部を訪れる頻度は人それぞれであり、「ほぼ毎日」訪れる人から「1 月に 1,2 回程度」訪れる人まで多様であったが「4」の回答の人は見られなかった。

回答をもとに、中心部を訪れる際の目的についてそれぞれ話を聞いたところ、毎日中心部を訪れる人は「今の仕事の関係」や「朝の散歩」など習慣的に訪れていることが分かった。次に、週に 1,2 回程度中心部を訪れる人は「中心部にいる友人に会いに行く」、「中心部の喫茶店に行く」という目的で訪れている。1 月に 1,2 回程度の人にも、同様に「喫茶店に行く」という人もいたが、他に「買い物には良く出かけるが、中心部は品が揃っていないので、よそのまちにいく」という人もいた。1 月に 1,2 回程度の人と答えた人は、他の人の様に明確な目的があるわけではなく、「ほとんどいかないが、たまには行く」程度である。

2) 小野地区住民の考える「中心部の良い所」

中心部の歴史的な面に対する評価と、生活の場としての評価の 2 つに大別された。特に良い所には、歴史的な面に対する評価が多く、「城下町らしさが残っている」、「街並みがきれいである」といった意見や、「水路や水がきれい」といった意見があり、全国的に有名な「郡上八幡」という地域への高い評価があった。生活の場としては、コンパクトに様々な施設がまとまっているため、「人と出会える場所がある」ことや「買い物を容易に済ませられる」といった意見が良い所として挙げられた。

3) 小野地区住民の考える「中心部の悪い所」

「中心部の悪い所」に関しても「良い所」と同様の 2 つに大別された。こちらは生活の場としての評価が多く、品揃えが少ないことや、駐車場が少ない所など、買い物などの生活行動の中での不満や、あるいは「生活空間としては快適ではない」「小野と違って公園が無い」などの評価があった。現在の小野での生活と対比させた上での、中心部での不便だった面への評価がうかがえる。

歴史的な面では、古くからの街並みが失われて始めていることに対する意見が多く、具体的に「あそこの店が無くなった」など、現状を認識していることが分かった。

4) 今後の中心部に対する提案

この質問に対しては、現在不満の不満を解消する提案や、現在良いと感じている中心部の魅力をより引き出すための提案が多かった。また、歴史面、生活面に関する提案だけでなく、小野地区を一体とした中心への提案も得られた。具体的には、「中心部を商業・観光地とし、小野地区を、それを支える居住地として整備する」といった地域を一体とした計画の提案や、個人レベルで何かをしていこうという働きかけなどである。

歴史的な面に対する評価	生活の場としての評価
<p style="text-align: center;">良い所</p> <p>C 八幡のまちなかは、小さな割には寺院がたくさんある。それで観光客が集まる。</p> <p>E まちの真ん中に川が流れて、お城があって、お寺がある</p> <p>F あれだけのお客さんを集客できる力は、過去に色々な方が努力されてPRされた積み重ねであれだけのお客さんがまちに来てくれているということは、すごい財産だと思います。</p> <p>G 古い街並みや城下町らしい面がいっぱいあるし、今は観光客がたくさん見えて、特に連休なんかは見たことないほどの賑わいがある</p> <p>H やはり歴史的な財産がまちなかにはものすごくあってそういう所はうらやましいと思いますし「きれいになったなあ」と毎朝あの辺りを散歩しているので、そういう風に思います。</p> <p style="text-align: center;">悪い所</p> <p>A (昔の商店では)高齢化とか人口減少もあるし空洞化もある</p> <p>F まちのなかで空家が増えて、昔の様な街並みが崩れてきたこともあるので、そういった所は、やはり寂しいということは思っています</p> <p>G 八幡の中心で空家が目立つというのは良くないと思います。あと空家でなくても、継ぐ人がなくて商売をやめてしまうのは寂しい</p>	<p style="text-align: center;">良い所</p> <p>A やはりコンパクトなまちなので、買い物とかを済ませるには楽ですよ。</p> <p>B 喫茶店とか、人と出会う場所や店が多い所は良いと思います</p> <p>G 昔ながらのまちの良さとか人情味のあるまちだと思います</p> <p style="text-align: center;">悪い所</p> <p>B 今は専門店が少ないということで買い物をしようにも、品物がそろっていない。だからどうしてもそろっている所へ行ってしまおう。まちなかにいっても、なかなか欲しいものがないし、特にそういう店には駐車場がない</p> <p>C 道が狭いということ。子供の遊ぶ公園が小野地区と違って無い。それと店が開まるのが早い。</p> <p>D 道路が狭いということと駐車場が少ないことがあるね。後は、品物がとにか高く高い。</p> <p>F やはり昔からのまちですから、昔からの家、道があって、救急車が入らないくらい細い道がありますよね。自転車が何とか通るくらいのもまだ結構あるので、生活環境としてはあまり好ましくないんじゃないかという思いはしています</p> <p>H まちなかで一番残念なのは、家族でご飯を食べに行こうと思っても、食べる所が無いという所です。</p>
これからの中心部に対する提案	
<p style="text-align: center;">歴史的な面への提案</p> <p>E (郡上踊りは)町内ごとにやっているのだから、そこに惹きつけられる様に、町内と(踊りの)保存会と一緒に何か出来るんじゃないかな</p> <p>G 観光のまちだと思いますので、やはり今後とも活性化に力を入れて欲しいですし、若者が定着出来るような企業努力をしていかなければいけないと思います。</p> <p>B もうちょっと地元の人もお客の人も買える様な特産品を作るべき</p> <p>H (現状に対して)まちの衆が皆で考えれば、絶対に良い考えが出てくると思うのだけど</p>	<p style="text-align: center;">生活の場としての提案</p> <p>A 高齢のハイカラさんのニーズに応えられる店があると良い</p> <p>F 小野に住んでいる皆さんがまちなかへ「行きやすい、行きたい」、その様な受け入れ体制への努力がまちなかには足りないのかもしれないから、その辺りの努力をしてもらいたいというのはあります</p> <p>B 食糧品を売る店がまちなかに無いと、食べ物に関して高齢の人が困るのではないかな</p> <p>H 企業努力というか、「いかにお客さんに来てもらうか」ということを、していかないと。</p> <p>I 物的にも人材的にも、新しい血を入れて、将来ビジョンを決めていくべきじゃないんですかね</p>
小野地区が一体となった提案	
<p>D 市街地に商業と観光のコアになってもらってそして小野は、そのコアを取り巻く、居住環境なり生活空間地域として整備する。そういう職務の分担をしても良いかなと思います</p> <p>F まちで育ててもらって、生活させてもらっているのだから、まちで買えるものは買わないといけないなと思っています。たまには出ていくこともありませうけれども、できるだけまちで買う様に努力しているつもりです。</p> <p>G (小野)は特別遠い所から来た人は少ないので、やはりまちなかの人と心をひとつにして、色々なことをしたり、側面から応援が出来たら良いと思います。</p>	

図 5.7 小野地区住民の中心部への意見 (アルファベットは表 5.7 に対応)

6. 小野地区と中心部の関係性

6.1 仮説の検証

住民意識調査の結果をふまえ、仮説を検証していく。

1) 仮説 1 の検証

個人および集団へのヒアリング調査を通じて、小野地区住民の中心部への強い意識を感じ取ることが出来た。中心部の持つ歴史的な資源を高く評価し、今後も維持されて欲しいと考えており、空き家や商店の衰退によってそうした資源が失われている現状についても認識している。そうした現状に対して危機感を抱いているが、よそに買い物に行くなど、実際の生活ではあまり利用しなくなっているというのも事実である。

2) 仮説 2 の検証

ヒアリングおよび報告会から、中心部同様、小野地区にも地域のまとまりがあることが分かった。近隣の住民との強い連帯意識がある中心部と比べると、小野地区の近所付き合いは希薄であるが、「干渉しすぎないあさりした関係」がある。また、地域全体がまとまるために様々な活動が行われており、中心部では高齢化によって行えなくなった運動会も、小野地区では多くの住民が参加し賑わいを見せている。こうした、中心部とは異なる地域のまとまりの形に住民は満足し、誇りを持っている。様々なタイプの住居があることに関しても「広く自由な家が作れる」という認識で、満足につながっている。

3) 仮設3の検証

2)に示す様に、小野地区では、様々な活動を通じて住民間のまとまりがある。そうした中で、今後まちづくりなどの活動を行う必要性を住民は感じており、また行うつもりであることも報告会を通じて聞くことができた。

今後を考える上で住民が重要視していたのは、今あるコミュニティをいかにして維持していくかであり、そのためのまちづくり活動が必要だと考えていた。しかし、農地の荒廃や水路の暗渠化など、小野地区の街並みの現状に対しては、認識はしているものの問題視はしていない様であった。

6.2 現在の小野地区と中心部の関係性

小野地区の住民のほとんどが現在の生活に満足しているが、その背景には、多くの住民の以前の居住地である中心部と比べて良い住環境が整っているということがある。調査を行ってきた中で感じとれたこととして「中心部と比べて」という強い意識があった。実際に小野地区には、広い宅地や豊かな緑など、中心部と比べて良好な住環境が整っており、そしてそれは区画整理以降に小野地区の住民によって形成されてきたものである。小野地区の住民には、歴史的な街並みなど、中心部の持つ明快なアイデンティティに対する認識があり、その中心部と比べて、良い住環境があるということが小野地区住民の誇りである。つまり、歴史的な都市である中心部と小野地区とを比較することで小野地区のアイデンティティが生まれ、成り立っているといえる。

小野地区住民の生活行動は広域化し、中心部は買い物などにはあまり利用されなくなった。それによって中心部への意識が希薄になったととらえられがちであるが、郡上八幡とは全く異なる特徴を持つ関市や岐阜市といった他都市や、似た特徴を持ちながら全く異なる様相を見せる白鳥町などの他の町を訪れており、そうして他の地域の現状を知ることが、郡上八幡の現状に対する発見や意識の変化にもつながる。他の地域と比較することが、郡上八幡の住民としての認識につながると考えられる。

つまり小野地区は、歴史的な都市である郡上八幡という地域に属するというアイデンティティと、その中で中心部と区別することによって生まれる小野地区特有のアイデンティティを有しているといえる。いずれにしても、中心部の歴史的な面が維持されることは小野地区にとって重要なことである。そして、こうした異なる特性の地域が隣り合っていることが、現在の互いの地域の魅力なのではないだろうか。

6.3 今後のそれぞれの関係性について

現在の関係性をふまえ、今後の小野地区と中心部現在の関係性について考えると、それぞれの地域の今ある特徴を活かしていくことが重要になる。しかし、現状としては中心部の衰退は依然増加の傾向にあり、小野地区においても居住者の増加が続き、農地が年々失われている。これらは、将来的には中心部の歴史的な面の喪失や小野地区の今ある郊外の趣の喪失を引き起こし、相互のアイデンティティの喪失につながる。現在の関係性において、小野地区は中心部からの刺激を受け成り立っているが、今後の相互のより良い関係性のためには、小野の住民が自分の住む小野地区のために何か対策を行っていくことや、あるいは小野地区から中心部へ何らかの働きかけを行うことも必要なのではないだろうか。

そのためには、今後行われようとしている小野地区の住民によるまちづくり活動において、農地や緑といった現在の小野地区の特徴である自然環境の維持にも目を向けていく必要があり、また、個人単位で、植栽や塀などから働きかけていくことも有効かもしれない。

7. 今後の課題

本研究では、小野地区の住民の意識に着目し、小野地区と中心部の関係性について明らかにし、今後の関係性についての考察、提案を行った。

しかし、本研究で得られた知見は、郡上八幡という地域の広域でのあり方について考えるための一部分である。今後は小野地区に限らず、同様に中心部に隣接する地域である五町地区や中坪地区などにも着目していく必要があり、また、中心部の住民の意識についても見ていく必要がある。

<参考文献>

- 1) 沖野俊介 2006年度早稲田大学卒業論文
- 2) 松崎直紀 2007年度早稲田大学院修士論文
- 3) 八幡町の空家の実態と特性 (2001) 岐阜県郡上郡八幡町
- 4) 八幡町都市計画マスタープラン (1996) 岐阜県郡上郡八幡町
- 5) 小野及びその周辺の大正・昭和のはばたき 松本俊雄
- 6) 小野土地区画整理沿革史 (1980)
岐阜県郡上郡八幡町小野土地区画整理組合
- 7) 小野用水乃堰ノ沿革 (1938) 野々田源太郎
- 8) 都市田園計画の展望 「間にある都市」の思想 (2006)
Thomas Sieverts 著 荻原敬 監訳 学芸出版社
- 9) 郊外の風景 江戸から東京へ (2000) 樋口忠彦 教育出版
- 10) 都市計画 226 (2000) Vol.49/No.3 日本都市計画